

2021年6月30日

旭化成建材株式会社

「在宅勤務経験者の住まいと暮らしの意識・実態」調査結果について【調査報告書】

温熱性能の高い住まいの人ほど、在宅勤務時の仕事に集中できる環境に満足している割合が高く 60.6%
新型コロナウイルス収束後も週の半分以上の在宅勤務をしたい人は 76.4%で前回調査を上回る*1
自身の気持ち（仕事・家族・自分）の配分に、現状と理想のギャップあり

旭化成建材株式会社（本社：東京都千代田区、社長：山越 保正）快適空間研究所*2（以下、「快適空間研究所」）は、新型コロナウイルス感染拡大防止を受けて急速に広がった在宅勤務をしている人々の住まいと暮らしの実態を把握するため、2度目の調査*3を実施しましたのでご報告します。

本調査は、首都圏にお住まいの2021年1月～2月に自身が在宅勤務をした人を対象に、「在宅勤務」および「家族や自分時間の過ごし方」、「室内環境に関する意識や満足度」について、2021年3月に実施しました。

I. 調査結果のトピックス**1. 在宅勤務環境に対する満足度と継続意向**

- ・在宅勤務経験者の在宅勤務環境に対する満足度（「大変満足」「満足」）は40%前後で、温熱性能の高い住まい*4に住んでいる人ほど在宅勤務環境に満足しており、その割合は約60%。
- ・共働き夫婦の在宅勤務経験者で、新型コロナウイルス収束後も週の半分以上の在宅勤務をしたい人は76.4%で前回調査を上回る。

2. 時間の使い方の変化

- ・新型コロナウイルス感染拡大前と比較して、「仕事・家族・自分時間のバランス」に変化があったのは61.2%。
- ・「自分が好きに使える時間」が増えた人は、66.6%。「家族と一緒に過ごす時間」が良くなった人は、50.6%。

3. 気持ちの配分の理想と現状

- ・自身の気持ち（仕事・家族・自分・社会）の配分には、現状と理想にギャップあり。
- ・男性は現状よりも「仕事」を減らして「家族・家庭」、「自分」を増やしたい、女性は現状よりも「仕事」と「家族・家庭」を減らして「自分」を増やしたい傾向にある。

4. 在宅勤務の場所と家族との距離

- ・在宅勤務をする理想の場所は、男性は「個室の書斎」、女性は「リビング・ダイニング」が最も多い。
- ・在宅勤務をしている場所が「個室」派の方が「共有スペース」派よりも、在宅勤務環境に対する満足度が高い。
- ・在宅勤務時の家族との望ましい距離で最も多かったのは、「個室」派は3.0m、「共有スペース」派は2.0m。

II. 調査概要

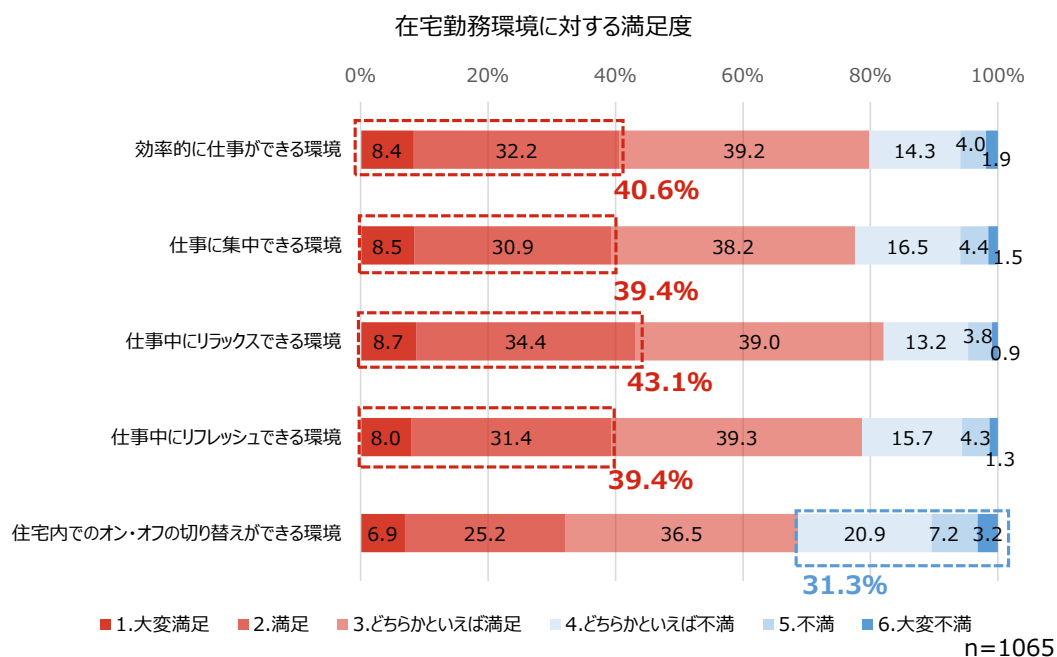
1. 調査目的：2021年1月～2月に在宅勤務をした人の、コロナ禍における価値観、暮らし方、住まい方への意識・行動及び評価などを把握するため。
2. 調査時期：2021年3月5日（金）～3月9日（火）
3. 調査対象：①首都圏1都3県（東京都、埼玉県、神奈川県、千葉県）
②30～59歳男女 持家戸建住宅居住者、持家・賃貸マンション居住者
③既婚者、配偶者同居2人以上
④2021年1月～2月自身在宅勤務実施者（回答者数：1065名）

III. 主な調査結果

1. 在宅勤務環境に対する満足度と継続意向

(1) 在宅勤務経験者の在宅勤務環境に対する満足度は40%前後。

「効率的に仕事ができる環境」「仕事中にリラックスできる環境」など在宅勤務環境に対する満足度について聞いたところ、満足（「大変満足」「満足」）の割合は40%前後となっていました。一方、不満の割合に目を向けてみると、「住宅内のオン・オフの切り替えができる環境」で不満（「大変不満」「不満」「どちらかといえば不満」）の割合が最も高くなっており、オン・オフの切り替えに悩みを抱えている方が31.3%いることがわかりました。

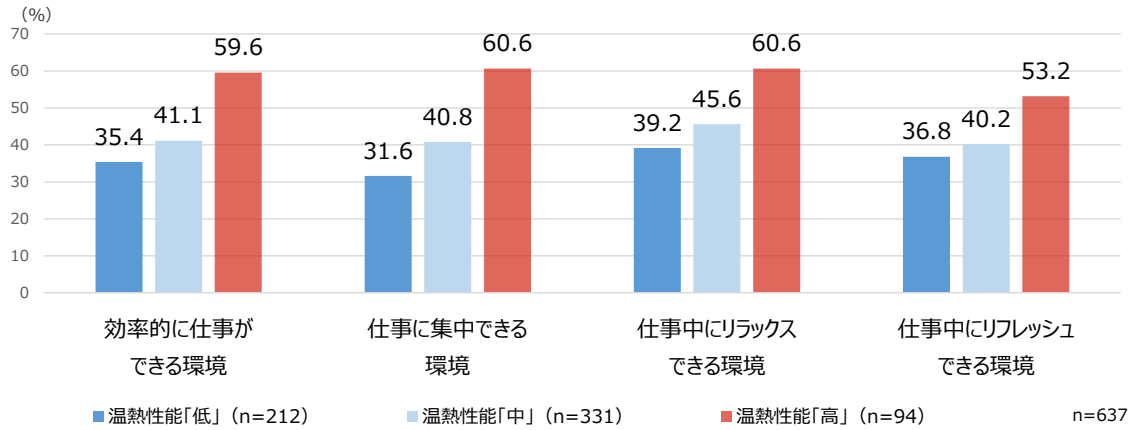


(2) 温熱性能の高い住まいに住んでいる人ほど、在宅勤務環境に満足しており、その割合は約60%

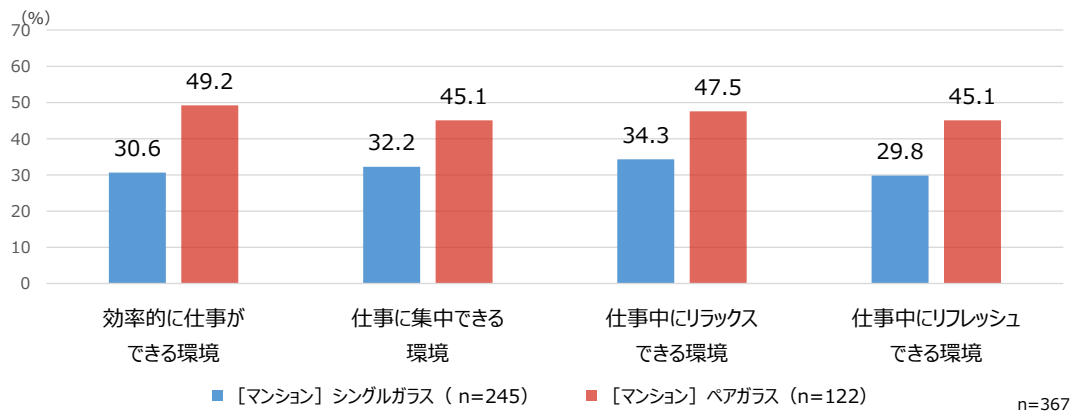
戸建住宅の住まいの温熱性能別^{*4}に、在宅勤務環境に対する満足（「大変満足」「満足」）の割合を比較したところ、温熱性能の高い住まいに住んでいる人の方が、在宅勤務環境に満足しており、その割合は約60%となっています。在宅勤務環境の満足度に、温熱性能が影響を与えているとい

うことが推察されます。

在宅勤務環境に対する満足度（「大変満足」「満足」の割合）【温熱性能別】（戸建住宅）



《参考》在宅勤務環境に対する満足度（「大変満足」「満足」の割合）【窓ガラス種類別】（マンション）



戸建住宅の温熱性能別の指標としている窓ガラス種類と同じ分類を用いて、マンションに住んでいる方についても窓ガラスの種類別によって比較したところ、シングルガラスよりもペアガラスのマンションに住んでいるの方が、在宅勤務環境に対する満足（「大変満足」「満足」）の割合が高くなっていました。

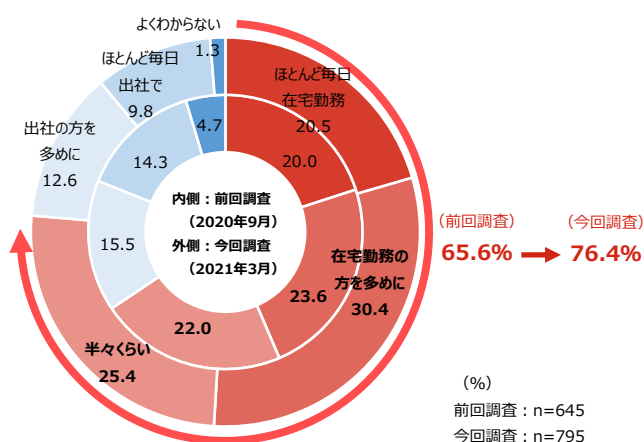
（Low-E ペアガラス、トリプルガラスと回答した人数は少なかったため、集計からは除いています。）

（3）共働き夫婦の在宅勤務経験者で、新型コロナウイルス収束後も週の半分以上の在宅勤務をしたい人は76.4%で前回調査を上回る

新型コロナウイルス収束後も週の半分以上の在宅勤務をしたい割合について、共働き夫婦の在宅勤務経験者を対象に前回調査と比較^{*1}すると、76.4%となっており、前回調査の65.6%を10.8%上回っていました。その増加分のほとんどが、「在宅勤務の方を多めに」「半々くらい」したいと回答した人の割合でした。2020年3月頃から急速に普及した在宅勤務ですが、約1年経過し、在宅勤務のメリットや暮らしを評価している方が増えていると推察されます。

新型コロナウイルスが収束後、出社と在宅勤務はどの位の割合が良いですか

【前回調査・今回調査の比較】（共働き夫婦の在宅勤務実施者）

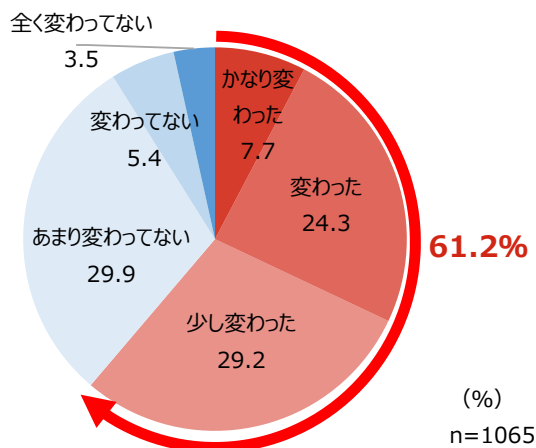


2. 時間の使い方の変化

(1) 新型コロナウイルス感染拡大前と比較して、「仕事・家族・自分時間のバランス」に変化があったのは 61.2%

新型コロナウイルス感染拡大前と比較して、「仕事と家族・自分時間のバランス」が変化したのか聞いたところ、変わった人（「かなり変わった」「変わった」「少し変わった」）は 61.2%と、「仕事と家族・自分時間のバランス」に変化が生じている傾向があるようです。

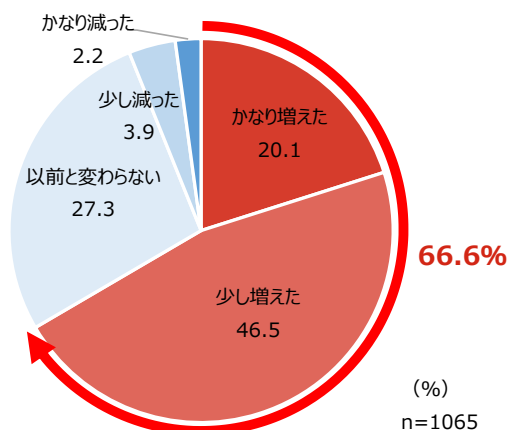
新型コロナウイルス感染拡大前と今とを比べた、「仕事と家族・自分時間のバランス」の変化



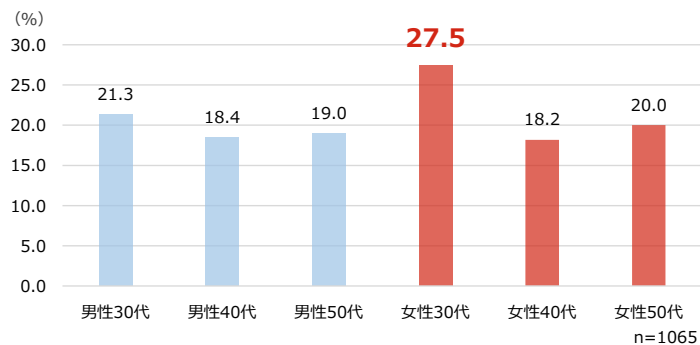
(2) 「自分が好きに使える時間」が増えた人は、66.6%。

「自分が好きに使える時間」が増えたと思うかについては、増えた（「かなり増えた」「少し増えた」）と回答した割合は 66.6%であり、在宅勤務の導入によって、自宅での時間の使い方に変化が生じている可能性が伺えます。また、性年代別に比較すると、女性 30 代が「かなり増えた」と回答している割合が最も高く 27.5%に上っていました。

在宅勤務による、自宅で自分が好きに使える時間の増減について



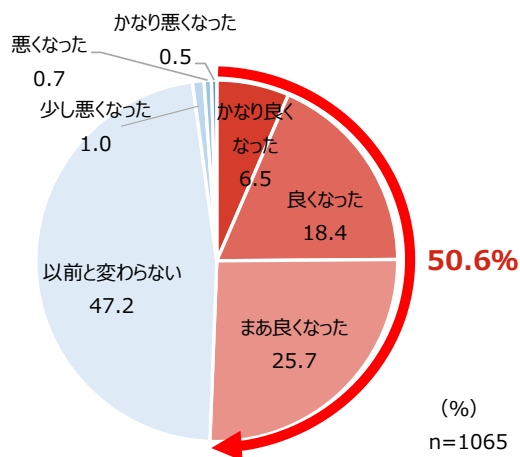
在宅勤務による、自宅で自分が好きに使える時間の増減について（「かなり増えた」割合）【性年代別】



(3) 「家族と一緒に過ごす時間」が良くなった人は、50.6%。

新型コロナウイルス感染拡大前と比較した「家族と一緒に過ごす時間」の変化については、良くなった（「かなり良くなった」「良くなった」「まあ良くなった」）と50.6%の人が回答しています。

新型コロナウイルス感染拡大前と比べた、「家族と一緒に過ごす時間」の変化



3. 気持ちの配分の理想と現状

(1) 自身の気持ち（仕事・家族・自分・社会）の配分には、現状と理想にギャップあり。

「仕事のこと」「家族・家庭のこと」「自分のためのこと」「社会・地域のこと」への気持ちの配分について聞きました。（合計が10となるように、それぞれの内容に対して、自身の気持ちの配分を1から10の整数で割り当て。）

理想の気持ちの配分、および、現状の気持ちの配分の平均値についてみてみると、理想と現状にギャップがあることがわかり、

理想の気持ちの配分の平均は、

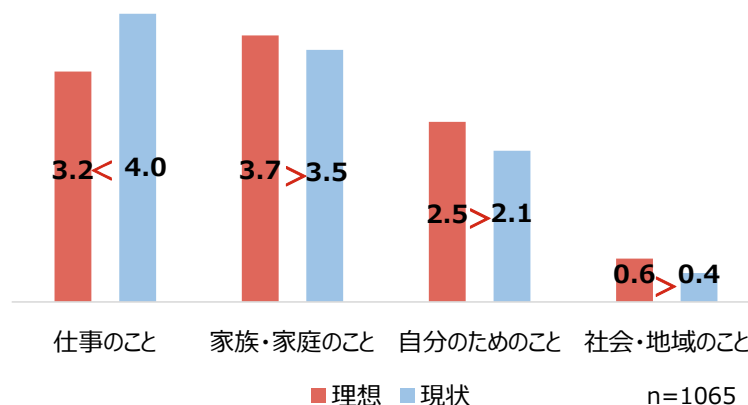
「仕事」：「家族・家庭」：「自分」：「社会・地域」 = 3.2 : 3.7 : 2.5 : 0.6

現状の気持ちの配分の平均は、

「仕事」：「家族・家庭」：「自分」：「社会・地域」 = 4.0 : 3.5 : 2.1 : 0.4

という配分になっていました。「仕事のこと」では現状の気持ちの配分は理想より高く、「家族・家庭のこと」、「自分のためのこと」、「社会・地域のこと」では、現状の気持ちの配分は理想より低いという結果となりました。

気持ち（仕事、家族・家庭、自分、社会・地域）の配分の平均値（理想と現状の比較）

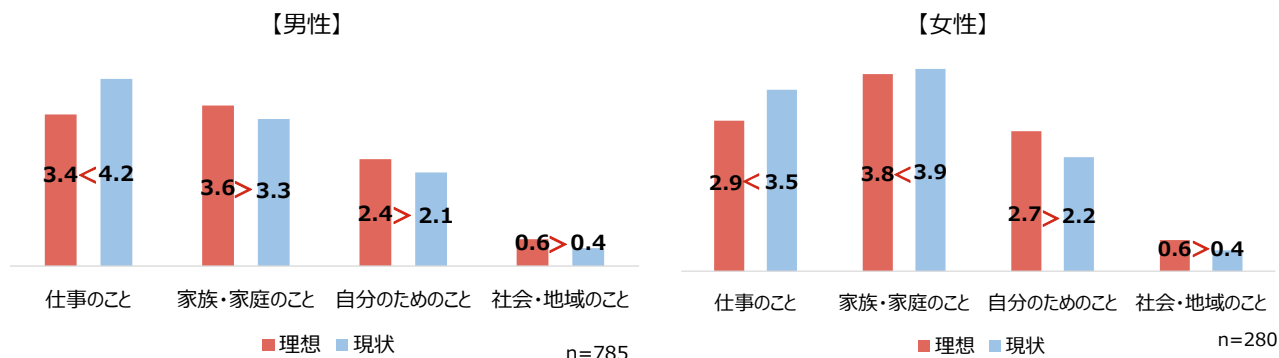


また、本調査報告書で詳細グラフは掲載しませんが、回答者の数値の分布を別途確認したところ、理想とする「家族・家庭のこと」への気持ちの配分は、回答者によるバラつきが最も多くなっています。理想とする「家族・家庭のこと」の気持ちの配分には、人によって大きな違いがあることがわかりました。

(2) 男女の気持ち（仕事・家族・自分・社会）の配分に、ギャップあり。

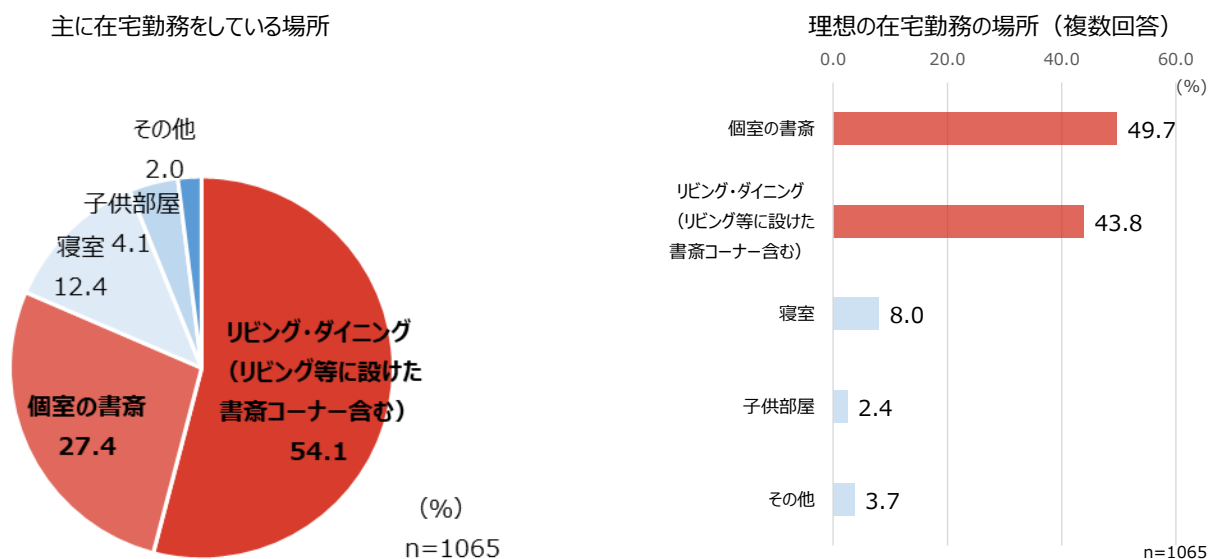
男女別にみると、現状の「家族・家庭のこと」への気持ちの配分は、女性の方が男性よりも高くなっており、女性の理想は「仕事のこと」だけでなく、「家族・家庭のこと」も減らし、「自分のためのこと」への配分を増やしたいと考えているようです。一方で男性は、女性よりも現状の「家族・家庭のこと」が低くなっており、理想としては「仕事のこと」を減らし、「家族・家庭のこと」「自分のためのこと」を増やしたいと考えているようです。

気持ち（仕事、家族・家庭、自分、社会・地域）の配分の平均値（理想と現状の比較）【男女別】



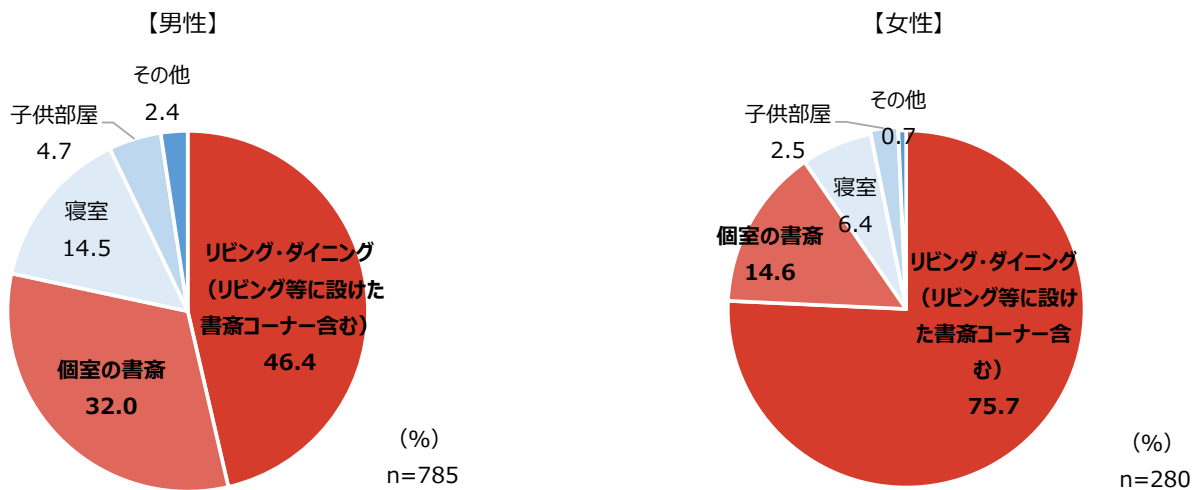
4. 在宅勤務の場所と家族との距離

(1) 在宅勤務をする理想の場所は、男性は「個室の書斎」女性は「リビング・ダイニング」が最も多い
 主に在宅勤務をしている場所、および、理想の在宅勤務の場所について聞きました。主に在宅勤務をしている場所で最も多かったのは、リビング・ダイニングが 54.1%、続いて個室の書斎が 27.4%でした。理想の場所については、最も多いのは、個室の書斎 49.7%、続いてリビング・ダイニング 43.8%でした。理想とギャップがあるものの、大きく「個室」派、「共有スペース」派の2つに別れていることがわかります。

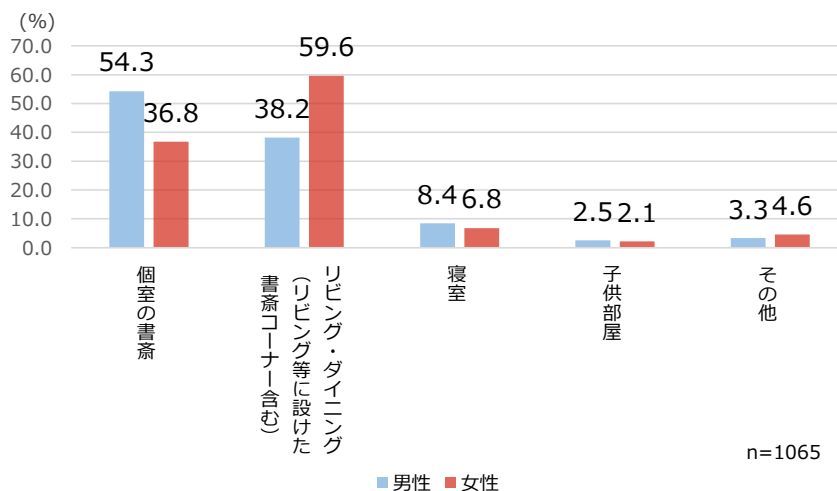


主に在宅勤務をしている場所については、性別によらず「リビング・ダイニング」が最も多くなっていますが、男女でその割合は違っていました。「リビング・ダイニング」で仕事をしている割合は、女性の方が男性よりも 29.3%割合が高く、一方、「個室の書斎」で仕事をしている割合は、男性の方が女性よりも 17.4%高くなっていました。また、理想の場所として最も多かったのは、男性は「個室の書斎」(54.3%)、女性は「リビング・ダイニング」(59.6%) となっていました。男性は「個室」派、女性は「共有スペース」派が多くなっています。

主に在宅勤務をしている場所【男女別】



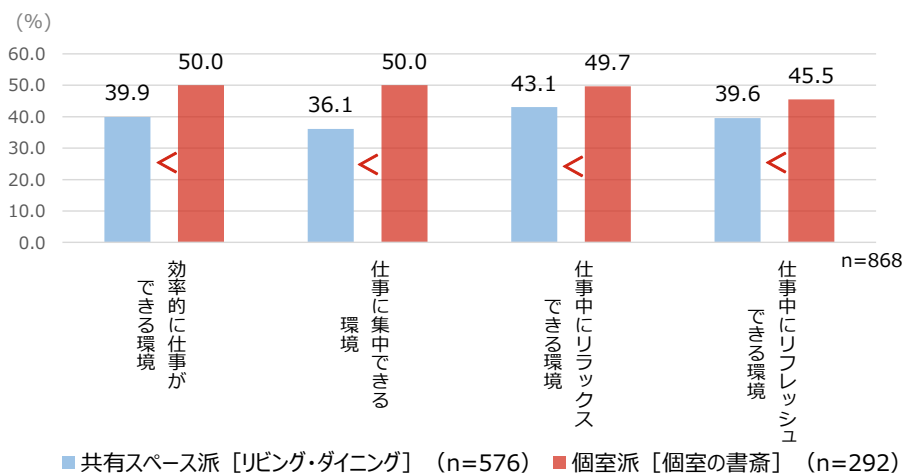
理想の在宅勤務の場所【男女別】 (複数回答)



(2) 在宅勤務している場所が「個室」派の方が「共有スペース」派よりも、在宅勤務環境に対する満足度が高い

在宅勤務をしている場所別（「個室」派、「共有スペース」派）に、在宅勤務環境に対する満足度の違いをみてみます。いずれの項目においても、「個室」派の方が、満足（「大変満足」「満足」）の割合が高くなっており、特に、「効率的に仕事ができる環境」「仕事に集中できる環境」については、「個室」派が10%以上満足度が高くなっていました。家族との共有スペースである「リビング・ダイニング」よりも、一人の空間になれる「個室の書斎」で仕事をしている人の方が、効率的に・集中して在宅勤務ができていると感じている傾向にあるようです。

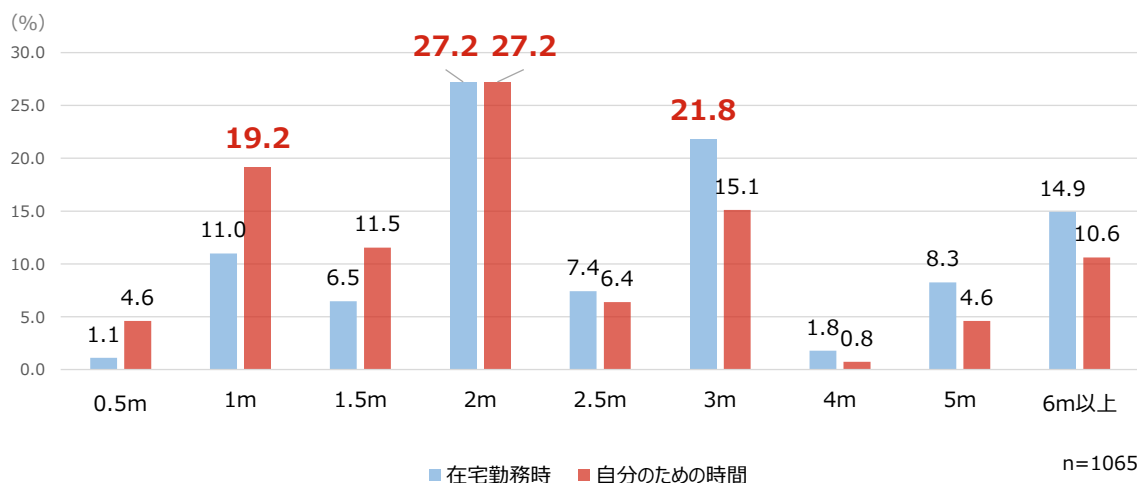
在宅勤務環境に対する満足度（「大変満足」「満足」の割合）【現状、主に在宅勤務をしている場所による違い】



(3) 在宅勤務時の家族との望ましい距離で最も多かったのは、「個室」派は 3.0m、「共有スペース」派は 2.0m

在宅勤務時、自分のための時間それぞれにおいて、家族と同室で過ごす場合の、家族との望ましい距離について、0.5m刻みで回答してもらったところ、最も多かったのは、在宅勤務時も自分のための時間も 2.0mと同じ距離でした。しかし、2番目に多かったのは、在宅勤務時は 3m、自分のための時間は 1.0mでした。回答者の割合の分布をみると、在宅勤務時は家族と離れ、自分のための時間は、家族と近い距離が望ましいと考えている傾向にあるようです。

在宅勤務時、自分のための時間の、家族と同室で過ごす場合の家族との望ましい距離 (m)

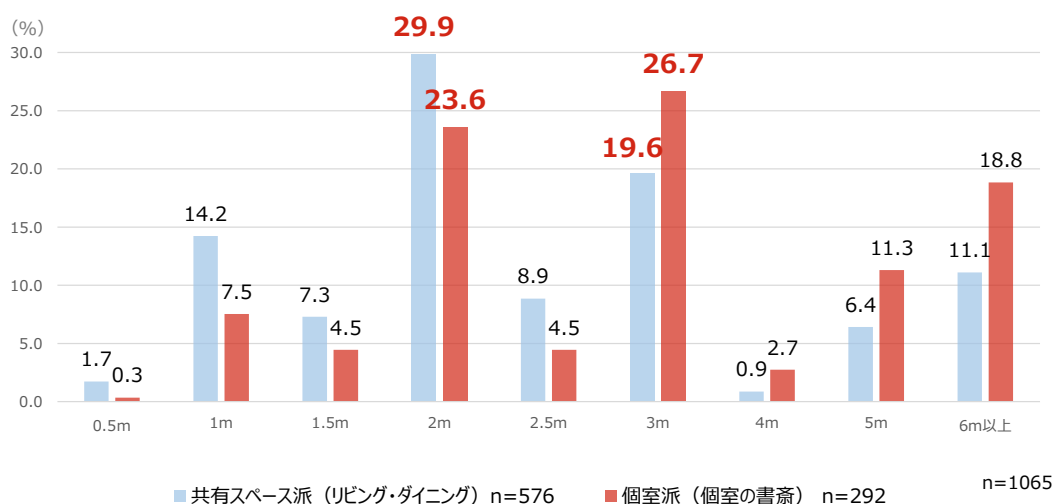


また、「個室」派、「共有スペース」派の在宅勤務時の家族との望ましい距離を比較すると、最も多かったのは、「個室」派は 3.0m、「共有スペース」派は 2.0mと、個室派の方が家族との距離を保つことを望ましいと考えている人が多いです。2番目に多かったのは、それぞれ、「個室」派

2.0m、「共有スペース」派 3.0mとでしたが、回答者の割合の分布をみると、「個室」派の方が家族との距離を保ちたいと回答している人が多くなっているようです。いつも一緒に過ごす家族ですが、望ましい家族との距離はそれぞれ異なることがわかります。

在宅勤務時、家族と同室で過ごす場合の家族との望ましい距離 (m)

【現状、主に在宅勤務をしている場所の違い】



IV. まとめ

今回の調査結果より、在宅勤務によって、「仕事・家族・自分時間のバランス」が良い方に変化した人が多いことや、「仕事・家族・自分・社会のことへの気持ちの配分に、理想と現状のギャップが存在し、『仕事のこと』では現状の気持ちの配分は理想より高く、『家族・家庭のこと』、『自分のためのこと』、『社会・地域のこと』では、現状の気持ちの配分は理想より低いこと」「温熱性能の高い住まいに住んでいる人ほど、在宅勤務の環境に満足している人が多いこと」「在宅勤務する理想の場所は、男性は『個室の書斎』、女性は『リビング・ダイニング』が最も多く、望ましい家族との距離は状況や人によって異なること。」などがわかりました。

快適空間研究所では、これまで「生活者のいきいきとした暮らしの実現」に貢献するために調査研究や情報発信を実施してきました。今後も、今回の調査結果から見てきた、コロナ禍における働き方の変化に伴って、変わりつつある住まいへの考え方や新しい暮らし方に対応し、生活者本人だけでなくその家族が幸せになる「良質な空間」を創出するための調査研究、情報発信活動を行ってまいります。

*1 2020年9月調査と今回調査の対象者条件を揃え、関東1都3県（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）にお住まいの共働き夫婦で本人が在宅勤務実施者（戸建住宅・マンション居住者）を対象に比較。

*2 快適空間研究所 (<https://akk-kaitekilab.com/>)

- 1) 名称：旭化成建材株式会社 快適空間研究所
- 2) 所在地：東京都千代田区神田神保町1丁目105番地 神保町三井ビルディング
- 3) 設立：2014年4月
- 4) 所長：白石 真二
- 5) 目的：良質な空間を実現するための情報収集と分析及びそれらの結果を踏まえたコンセプト開発、マーケティング活動。
 - ① 一戸建の温熱環境と生活実態の把握による居住空間での温熱環境ニーズの発掘
 - ② 活動方針に共感いただける社外の関連企業、大学等の研究機関、行政、生活者等との共創
 - ③ 研究成果の社会や生活者への情報発信と断熱事業へのフィードバック

*3 「“共働き夫婦 在宅勤務経験者”の住まいと暮らしの意識・実態」調査結果について（2021年1月21日）

首都圏と関西圏の戸建住宅にお住まいの“共働き夫婦”で、2020年6月以降も在宅勤務をしたことがある人を対象にした調査
<https://www.asahi-kasei.com/jp/news/2020/co210121.html>

*4 温熱性能別の比較について

アンケートで住宅の断熱性能を回答してもらうのは難しいため、本調査では、住まいの温熱性能別の比較をするために、窓ガラスの種類について選択してもらい、その結果を分類し解析している。戸建住宅にお住まいの回答者のうち、温熱性能「低」：シングルガラス、温熱性能「中」：ペアガラス、温熱性能「高」：Low-Eペアガラスまたはトリプルガラスと回答した人、と分類している。なお、この分類は、実際の住宅全体の断熱性能と高い相関があることが確認されている。

*参考：食野遼 須永修通 大塚弘樹；住宅の断熱性能とライフスタイルの関係に関する研究、日本建築学会大会学術講演梗概集（九州）、pp1145-1146、2016.8

以上